



Heroldo de HEL 北海道エスペラント連盟

053-0844

N-ro 71
1997 decembro-1998 januaro

ORGANO DE
HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

苫小牧市宮の森2丁目18-18 星田 淳 方

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

ĉe Acuŝi HOŜIDA

Mijanomori 2-18-18, TOMAKOMAI

053-0844 Japanio

ENHAVO

La 61a Hokkajda Kongreso de Esperanto
第61回北海道エスペラント大会

参加の記 木村護郎 2
手紙 手島展代 3

Zamenhof-a festo en Sapporo
ザメンホフ祭-札幌-

Ejko ABE 阿部映子 4

Danke ricevitaj-受領郵便物
Acuŝi HOŜIDA 星田 淳 5

Novjara Kurso de HEL

新年講習会

講師初体験 Yuka KAŬAI 川合由香 6
感想 Yoŝiharu GOTOU 後藤義治 7

Raporto de la 2-a komitata kunveno de
HEL 委員会報告 Ejko ABE 阿部映子 7

El redakatejo 編集部から

前号で、号数と期間が洩れたことをお詫びいたします。(N-ro 70 oktobro-novembro)

今号は、日本語文ばかりで頁数も少なくなっていました。また、1月末発行の予定でしたが、風邪で寝込んでしまいました。職場で風邪が流行し順番に休む状態でしたが、3日間休んだのはちょっと長くかかりすぎ?今もまだ本調子をとり戻せない感じです。もしもワープロミスがあっても大目に見てください。発行が遅れてしまったことについてもお詫びいたします。

川崎エスペラント会から機関紙の寄贈があり、今後、機関紙交換をすることになったことを報告します。

ところで、前号「編集部から」で意見・感想を募集したのに、大会に参加したHEL会員からの意見・感想が全くなかったのは寂しい。年末年始の時期で皆さん忙しかったのかなと思っています。これからでもいいですからお便りお待ちします。

今年は、寅年。どんな年になるのでしょうか?エスペラントが作られてから111年ですね。HEL会員が少しづつまた増えてきています。少しづつでも、昨年につき今年もエスペラント躍進の年になればいいですね。

(Ejko ABE 阿部映子)



北海道大会参加の記

日本青年エスペラント連絡会（J E J）の北海道の会員が、第61回北海道大会に合わせて、隔月発行の機関誌”La Junuloj”の編集会議開催地（全国各地で持ち回り開催）に名乗りをあげてくれたので（北海道のみなさんに感謝！）、北海道大会に参加した次第です。

今回の北海道大会は、エスペランチストだけで閉じこもらなかったことと、北海道以外からも積極的に参加者を募ったという二つの点で、確実に通常の地方大会の枠を超えていたと思います。内容的にも、一日めの連盟総会で議論された議案といい、二日めのハイレベルな出し物のオンパレードといい、地方大会にはもったいない（というのなんですが）ほどでした。講演はぜひ報告集などの形で読めるようにしていただきたいと思います。

J E Jとしては、印刷がロンデタージョでできたため印刷と作業が同じ場所でやれるという絶好の環境を得たことと、大会のプログラムとして行われたため会員以外の人との交流もできたことが大きなメリットでした。地方大会などのイベントとあわせて編集会議を行うのは初めての試みでしたが、これは名案でした。

しかし、このような大会は、実行委員会の人々のおそるべき尽力によってはじめて可能になったことだと思います。（本大会の数日前から来て見ていたものとしては、ひねもすワープロに向かう佐藤さん、朝から晩まで印刷している鈴木さん、料理の腕をふるうゴンさん、そしてあちこち動き回って采配をふる宮沢さんなどの姿が強く印象に残っています。）

一部の人に負担がかかりすぎて全体がぼちゃってしまう例も過去のエスペラント界ではあったようです。部外者がでしゃばることではありませんが、過度な無理をしないでできる持続的な態勢づくりが課題だと拝察します。豊かな経験ができた今回の大会について感謝するとともに、北海道におけるエスペラントの更なる発展を念じています。

木村護郎（東京）

大会賛同人の手島展代さんからの手紙です。宮沢さんあてでしたが、エスペランチスト以外の目を見た道大会ということで掲載させていただきます。宮沢さんのもとには、東京の加藤直樹さんからさんからも「……略……子どもが演じるアイヌ文化—たった三十年前からはじまった和太鼓—女ものの着物を羽おり叫ぶヒゲの男。何というか、実にエスペラントらしかったのではないだろうか。そこには陳列された作品はなく、歴史の中を泳ぐ鯨のような「運動」の片リンの経験があった……略……」といった調子で書かれた過激でおもしろい手紙が届いています。



モリスエ
つとむさ
会習学つと
一マハ、
販機き品用
立決つ会開
イベモハス
思き立決神
マまが馬録
ち田新さ

宮沢さんお元気ですか

今日「第61回北海道エスペラント大会事務局」名で大会資料等一式届きました。（けいこさんの手紙入りで）どうもありがとうございました。

今回の北海道エスペラント大会大成功だったようで本当に良かったですね。いろいろな機関個人から後援あり賛同ありで良かったですけどいろいろ大変だったと思います。本当に御疲れさまでした。

私は個人的に言わせていただくと特に緑色の紙に書いてある「国際交流、異文化交流を地域で体験しませんか？」というところの内容がすごく気に入りました。

とても読みやすく誰でもの心の中にすっと入っていきそうな文章だったと思います。それから連盟の冊子に今回の大会についての事業報告等読ませていただいて本当にたくさんのいろいろな人達が集まったんだなあとびっくりしました。それからラジオ放送もしたんですね。あたしも機会をみつけていつかはちょっとでも参加してみようかなーと思うようになってきました。

実はずーっと前にじょうじから本当の基本的な文法を教えてもらったもののそれっきりずーっとエスペラント語とはすっかりごぶさたしてしまっていました。新しく習う言語っ手なかなか習得が大変ですから。

でも今ウラジオストクで日本語をロシア人の学生に教えているとロシア語を私が大学で勉強していた時よりもみんなずーっと熱心でなんだか私まで刺激を受けてまた勉強してみたいなーという気持ちになってきたのです。

それから授業中のやりとりとか寮へ帰ってからロシア人と接する中で気持ちのやりとりなど含めお互い違う言語文化を越えてこの頃何んとなく理解し始めてるなーとぼーっと感じるようになりました。

どちらかという今まで狭い世界しか見ていなかった私にとって自分の今まで育ってきた日本という国が外国人から見てこういうふうに見られてるんだーという何かイメージみたいなものも最近ようやくはつきり見えて来ました。要は日本を客観化できる目みたいなものでちょっと大げさですが見るができるようになったような気がします（理屈じゃなくて）。

まだまだ本当に広い視野でものを考えたり見ることができるようになるにはもっともつと時間と経験が必要だと思いますが……もつともつといろいろな考え方の人達と知り合いになってちゃんと自分の意見を言えて相手の事も理解できるように。

札幌エスペラント会のザメンホフ祭は、12月13日(土)午後1時から、いつも例会(学習会)を行っている「かでる2・7」で行われた。新人4名も加わって27人が参加(私のように学習会にはあまり顔を出さないけど楽しいことは好きという会員もいます)。図書販売、バザーもあり、ほぼ満席。中川郡在住の川合由香さんは、参加できないけれどバザー用品を郵送してくれました。

開会に先立って、11月にご逝去された高橋要一さんへの黙祷。大先輩として長い間札幌エスペラント会で活躍いただきました。土曜日の学習会を札幌市職員会館で行っていた時の高橋先生を思い出してしみり(あの頃は、私も今よりは真面目に勉強していた?)。

最初はまず、ザメンホフ祭らしく児玉さんが書いたエスペラント文「ザメンホフ祭によせて」を池田さんが朗読。

次に、一人づつ自己紹介のひとことメッセージ(うーん。怠けていると新人4人にあっという間に追い越されそう)。

池田さんが日本大会参加の報告を行い、星田さん、児玉さん、小渕さん、山岸さんがそれぞれ世界大会の参加の報告というよりは感想を話す。

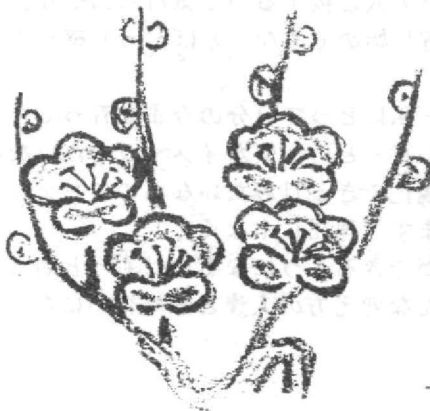
そして、お待ちかねの人形劇(毎年これが楽しみ)。今年は「ブレーメンの音楽隊」。

そうそう、歌も歌いました。木村先生は65年前に歌ったという「Ruĝlibelo」(赤とんぼ)を披露。「La espero」「La tagigo」の替え歌を歌いましたが、もちろん本当の「La espero」と「La tagigo」も皆で合唱しました(道大会では歌わなかったので、やはり何かものたりない気持ちがどこかにあったようで、歌うのが楽しかった)。

楽しい時間は過ぎ去るのも早く、部屋は午後4時30分までには机をもとどおりにすることになっており、3時間少々の時間はいつの間にか終わってしまいました。これで今年の札幌エスペラント会の行事は終了。来年のザメンホフ祭が今から楽しみです(札幌エスペラント会の行事は、毎週の例会(学習会)と年2回講習会もあるのですが、ザメンホフ祭ばかり楽しみにしている。あっそうだ!総会もありました。来年は2月21日(土)開催でやはり午後1時から「かでる2・7」(北2西7)です)。

1997年12月

Ejko ABE 阿部 映子



♪ ♪ ♪ ♪ ♪

♪ ♪ ♪

♪ ♪ ♪

*Mejlstono 1997/11, n-ro 144, 仙台E会

B5X 6 頁、エスペラント文なし。第3.8回東北エスペラント大会の関係記事。菊島さんのボスニア・ヘルツェゴビナ関係の講演・展示は北海道大会と同じだったが、知事選挙投票日がたたったか、入場者は少なかったとか。恒例の朗読コンクールも課題文を事前配布して出場者を募るよう再検討。

*LA JAPANA BUDHANO: INFORMILO DE JBLE, N-ro 298, NOVEMBRO DECEMBRO 1997, 日本仏教エスペラント連盟: A5 X24頁のうちエスペラント文4頁。宮沢賢治の「ひかりの素足」のエスペラント訳連載(西康宏)が終わった。「日本語エスペラント辞典の仏教用語について」はなお連載中。これは用語全部を見直して変更、追加を書き込んだもの。「パーリ語入門」も連載中。なお10年続いた磯部晶之助さんの編集はこの号で終わり、次号から西康宏さんが編集する。

*NOVA VOJO:1997.12 (N-ro 325 decembro), 大本エスペラント普及会, A5 X32頁、内エスペラント文10頁。韓国エスペラント大会の参加記が4ページにわたっているがMiko Sloper も登場。

*エスペラントで世界が見える 第72回九州エスペラント大会案内: 4月11~12日、福岡市大濠荘にて: 同時にエスペラント展も開催予定。広高正昭氏の講演「インターネットとエスペラント」

*センター通信: 1997年12月29日名古屋エスペラントセンター発行 N-ro201, B5X10頁のうちエスペラント文3頁はMia provo instrui Esperanton al mia filo(YAMAGUTI Sin'iti).

*年賀状: 日本共産党衆議院議員北海道事務所

*年賀状: 日本共産党北海道委員会

政党からの年賀状は初めてか?

*NOVA VOJO:1998. 1 (N-ro 326 januaro), 大本エスペラント普及会, A5 X32頁、内エスペラント文3頁。

*TRI MONTOJ-La BULTENO de la GUNMA-ESPER-

ANTO-SOCIETO (群馬エスペラント会), N-ro. 96

1998年1月、B4X5頁の内エスペラント文1頁弱。活動報告に、世界の都市の絵はがき展(前橋中央郵便局)がある。

*Raportoj el Japanio:Aprilo 1991 - Aŭgusto 1997; 著者堀泰雄(JEI 理事)。日本を世界に紹介する記事など106編をまとめた本の広告。S-ro 堀の報告はMONATO誌によく出ている。「一輪読テキストに、文通の参考に、外国へのおみやげに、ぜひ利用してください」全文エスペラント2200円、注文はJEI またはKLEGへ。

*受講生通信 第56号 1998-01-01:沼津エスペラント会通信講座: B5X6頁のうちエスペラント文1頁。佐々木博美さん(函館市)からの便りは函館E会の学習会について。「参加者は日本人成人4名、ロシア人少年2名の6名でした...」に、「国際的な講習会ですねえ」の評。

*Koresponda Kurso por progresantoj - Informilo kaj Aligilo (エスペラント中級通信講座・案内と申込書): 沼津エスペラント会、B5X4頁。受講料15,000円のところ1月末までは13,000円、また学生、年金生活者、失業者は12,000円。

*La Movado N-ro 563 jan. 1998, B5版20頁の内エスペラント文は4頁。内1ページは"KIO ESTAS SUKCESO? neoficiala raporto pri la 61a Hokkajda Kongreso de Esperanto"(MIYAZAWA Naoto)。JEIのLa Revuo Orientaに出たものと原文は同じらしいが、JEIのはかなり短くされている。こちらのは原文に近いらしく、JEIが削った筆者の独断・偏見(?)の部分もよくわかる。Mikspotoにも北海道大会関連記事あり。

*PONTETO 1998年1月号 N-ro 167, la 15an de januaro, 1998:関東エスペラント連盟: B5X8頁のうちエスペラント文はUEA-Prezidanto LEE Chong-Yeongの年頭あいさつ2頁弱。

講師初体験

川合 由香

年末の某日、宮沢氏から電話が来る。新年講習会で初心者クラスの講師をしてくれないか、とのこと。私ごときにつとまるのか？しかし、昨年 11 月の道大会でさんさんデカイ口を叩いた手前、できませんとは言えない。また、道北担当ということで HEL の委員も務めさせていただいていたものの、めぼしい貢献はなにもできていなかったのも、こころでひとつ…という気になり、「やります！」とこたえてしまった。

時間の見当をつけながら、説明するべき事項に、自作・他作の練習問題(なるべく笑えるもの)をとりまぜて、自分なりの *lernolibro* の下書きをつかった。これを清書して配布しようとおもっていたが、もろもろの事情(単なる怠慢?)によりできず、結局、下書きは私のアンチョコとして使い、受講生の皆さんには白い紙を配って、各自ノートしてもらった。これについては「自分の言葉で書いたほうが覚えられる。」という、受講生の方からのありがたい声もあり、怪我の功名、と胸をなでおろした。

往生した質問は、「相関詞とは、ひとことでいってなにか？」と、「kio と kiu はどう違うのか?」。私なりの(しどろもどろな)説明はしたものの、納得してもらえたかどうかはわからない。人に説明できないということは、私自身が自分のものにしていない証拠である、とおもい、おおいに反省した。

講習の雰囲気は大変和やかで、楽しい二日間だった(と、みんなおもってくれたのでは?)。ただ、11 月の Miko さんの講義に出席した人からは、「もっと口を動かすことをしたかった。」といわれた。私も *rekta metodo* には魅力を感じるが、日本人が日本人に教える場合には最善の方法とはいえないと考えているので、あえて文法を理屈で解説するかたちにしたのだが、反応はいろいろで、一筋縄ではいかないものだなと痛感した。

また同様の機会をあたえられたら、今回の反省を生かして、よりツボを押さえた講習をしたい。

今年の新年講習会は、正月気分もまだ抜けきらない1月の10、11日の2日間、札幌市内のロンデタージョで行われました。あいにくの大雪ではありましたが交通が混乱する程でもなく、午後早くから三三五五集り始め、参加者はセルゲイ一家も含め約25人程。

勉強会は、中・上級者と入門者（けっこう古い人、ベテランも含まれてはいた）に分かれて行なわれ、初級は地方委員の川合さんが、上級はセルゲイ先生が当たった。

初日の夜は Amikeca kunsidoもあり、参加者はセルゲイ先生の奥様で作って下さった餃子とそっくりなロシア料理に舌鼓を打ちながら、これまた宮沢特製のハマナス酒・ハスカップ酒で夜おそくまで談笑がとぎれることなく続いた。

入門講座は初の先生役川合先生、少しアガリ気味だったがABCから始まり、品詞は語尾で決まる特徴を実例をひとつづつ上げながら講義を進め、2日目は「Zamenhofa Tablo」を使って「言葉の組み立て方」を、また一方ではエスペラントがいかに有用で便利な言葉かを造語のテクニックを説明しながら「言葉の増し方」を勉強した。

中・上級者を指導したのはおなじみセルゲイ・アニケイエフ先生、こちらはプロの先生、色々な小道具を用いながら、自分の考え、意志を相手に伝えるという言葉の基本機能を opinias, pensas, kredas, konsidas の四つの動詞を用いて意志の強弱、言葉のニュアンスを、先生と受講者、参加者同志などに実際の会話の中から引き出し理解させるという、言語教師の立場から専門知識を駆使してのレベルの高い講義をしていただいた。

ともあれお陰様で有意義かつ、充実した2日間であった。

S E S . G (Joŝiharu GOTOU 後藤 義治)

第2回委員会報告

Raporto de la 2-a komitato kunveno de HEL

[日時] 1月11日(日)午前8時～9時、
午後0時30分～1時30分

[場所] ロンデタージョ(札幌市北区麻生1)

[出席者] 星田 淳、サトウエイジ、後藤 義治、
宮沢直人、阿部 映子、川合由香、
横山裕之(午前のみ参加)

[議事内容]

* LKK報告

前号に載せた会計報告の一部訂正(バザー
売上げ29,615円が抜けていた。図書販売にも
多少の計算違いあり。参加費と寄付の間で1,
800円移動等)。HEL会計の後藤から「LK

Kの会計関係書類を精査した結果、支出の徴
憑は全て揃っており金額に誤りはない」との
報告がなされた。大幅な訂正ではないので、
機関誌に改めて載せることはせずに、次回大
会で報告することになった。

*新会計担当後藤から会計の現状報告

HEL会計には元帳が整備されておらず、
貯金通帳はこれまで出し入れがほとんどな
かったが、引継ぎを受けた段階で資産としては
金額に問題はない。(なお、事務局長から現
在の会員数は81名でうち会費未納者は5～
6人との説明があった)

* インターネット利用について

HELのホームページを持つ場合の金額についての調査中間報告(個人は安いが法人扱いは高い。道内ではサブネットが安い。J E Iはビッグロブ(BIGLOB)を使用)。J E Iの軒下を借りる形でHELの掲示を行うことも可能と考えられる。この場合は容量5MBで500円として、年間6,000円をJ E Iに支払う。又はHEL独自のホームページを持つ。どちらがよいか、J E Iから詳しい情報を得て検討する。

内容については、エスペラントの紹介はJ E I、苦小牧のホームページで行っているのので、HEL独自の内容として連盟の概要(行事案内、各ロンドの例会、パスポルタセルボ等)を考えている。エスペラントと日本語の両方作成し、別ページの方が読みやすい。

→料金的にはそう高くないので、ホームページ開設の方向でさらに検討していく。

* プラハ宣言のアイヌ語への訳

現在作成中。できあがったら、元HEL会員の切替英雄氏が目を通してチェックしてくれることになっている。

* 図書部から提案

KLG(関西連盟)からの委託販売図書の残を全て買い取りたい。行事の都度展示するためにもある程度本の種類は必要。→今後も販売努力を続ければ負担にならない金額なので購入決定。

ロンデダージョに常設の図書展示場所を設置した。

HELは出版実績もあるので、J E Iから15%引で購入できる書店扱いとなるのはどうか。→書店扱いは、全て買取りなので好ましくない。今までどおり委託販売の形で図書販売を行う。

* 次回委員会

日時 3月7日(土)午後5時～

場所 ロンデダージョ(札幌市北区麻生1)

議事内容 5月合宿、第62回道大会、その他

* 5月合宿

連休以外の土、日。

未定ではあるが、5月16・17日、小樽開催を予定。事務局長が中心となり小樽市内の会場を打診する。

LUDI PEK ESPERANTOとして楽しい合宿にしたい。また、小樽市民向け入門講座の実施も検討する。

* 第62回道大会

開催場所は苦小牧と決まっているが、日程やテーマ、講演者等は未定。

当面、9月か10月を予定。苦小牧エス会が中心となって適当な会場を探す。

テーマは、「希望する人」の言葉エスペラントで苦小牧から世界を結ぶ”(長すぎるという意見もあり、決定ではない)

* その他

第61回道大会記念のプラハ宣言各国語版を合宿・道大会にあわせて、小樽・苦小牧の船員クラブに置くのはどうかという提案→船員クラブの状況やどの程度増刷が必要かを確認したうえで決定したいということで継続審議となる。

* 機関誌発行

今回は1月下旬発行。その次は3月下旬を予定。

Heroldo de HEL

第71号(1998.1.31)

北海道エスペラント連盟機関紙

編集部 〒001-0012

札幌市北区北12西1パークMS602

阿部映子気付 電011-756-2291

郵便振替口座

02700-6-17075

北海道エスペラント連盟